

発行責任者 北川崇誠

編集者 北井悟司

連合奈良南和地域協議会 〒634-0061 橿原市大久保町 457-1 大松ビル 504 TEL0744-47-3905 FAX0744-47-2305

フードバンク学習会！！ 活動の現状を学ぶ 食に困窮する子どもへの支援を！

10月3日に奈良県社会福祉総合センターで、組合員等約50人が参加し、「もったいないをありがとうに」をスローガンに活動している『フードバンク学習会』行いました。



当日は、フードバンク奈良理事の小南昌紀さん（前奈良県高教組委員長）から、『フ

ードバンク活動の現状』について講演をいただきました。

フードバンクとは、品質に問題がないにもかかわらず廃棄される食品を、必要としている施設や家庭に無償配布する活動を言います。その活動と並行してフードドライブで、家庭や企業や自治体などに余っている食品を集める活動も行っています。

奈良市では、貧困家庭3,500世帯のうち、800世帯に食品配布を行うと共に、子どもへの宅食で子どもの見守り事業に補助金を創設し対応しており、対象となる子どもの人数が年々増えていることも報告されました。

最後に小南さんは、格差社会の中で、貧困にあえぐ家庭が増えている。とりわけ一人親家庭が厳しい生活を強いられている。一方で厳しい社会だからこそ支援をしたいという善意の人たちも大勢存在する。フードバンクはそうした人を結ぶ社会的使命があり、食品を必要とする人達に、食品

提供という活動を通して貢献することが述べられました。参加者からは「話が分かりやすかった」「丁寧な話に聞き入ってしまった」「自分たちもなかしなくてはと思った」等々の好評でした。

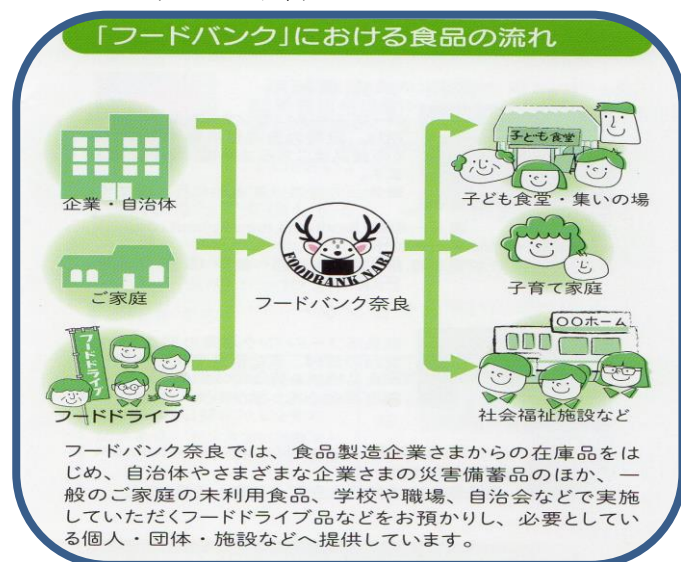
貧困の問題は、本来は政治の責任で解決しなければならない課題ですが、自公政権は自己責任の押し付けにより、全く解決しようとしないうち、現状は個々の献身的な取り組みでの対応となっています。貧しいことを親の責任にする国は先進国とは言えません。また、学習会直前の南和地協幹事会で、参加者が食品を持ち寄りを確認し、短期間での取り組みでしたが、当日は食料品24kgの食品を集めることができました。

今回の学習会をスタートとして、中南和地区でのフードバンク



活動を模索することを参加者で確認し学習会を終えました。

当日は、森山県議会議員と上田橿原市議会議員も参加され、共に学習をしました



10月連合奈良の日街宣行動

奈良県最低賃金改定を訴える

縮まらない大阪との格差

10月5日連合奈良の日街宣行動を近鉄八木駅で26人で行いました。当日は連合奈良からも参加し、アピールについては水野事務局長の運営で行



われました。奈良県の最低賃金が過去最高の30円が引き上げられ、896円と改定され

ました。このことは、中央・地方連携した連合運動の成果です。

最低賃金を遵守し、最低賃金を下回る実態の解消に努めなければなりません。また、大阪府が1,023円、京都府が968円であり、奈良県とは大きな格差が生じており、人材が県外に流失する要因ともなっており改善が必要です。

また、奈良県最低賃金で年間1,800時間働いても、200万以下の年収であり、生活維持には厳しい状況です。当面、最低賃金1,500円の獲得に向け更なる運動強化が求められます。



ティッシュとチラシ配布については、この間の地協幹事会で、明るく大きな声を出して配布し、残枚数ゼロに向けて確認をしてきました。

今回は参加した役員等の皆さんの積極的な対応により、1,000枚を完全配布しました。

【当日の参加者】

地協役員等：17人、連合奈良：水野事務局長、松田・山根両事務局長

推薦議員等：森山県議、上田橿原市議、今井橿原市議、松浦宇陀市議、猪奥前県議、山村さん（いおい事務所）26人参加



水野連合奈良事務局長



森山県議会議員



上田橿原市議会議員



今井橿原市議会議員



松浦宇陀市議会議員



猪奥前県議会議員